

世田谷美術館 駒沢分館

向井潤吉アトリエ館

2007年7月28日[土]—11月25日[日]

構

図

と

色

彩

その視覚と風景

向井潤吉



《微雨》（長野県木曾郡南木曾町妻籠）1974年

向井潤吉

構図と色彩

その視覚と風景



向井潤吉は、戦後からその半生をかけて、全国各地の民家のある風景を描きつづけた画家です。それらの作品は、いずれも現場制作を基本として描かれ、向井潤吉が、直接その情景を見つめ、空気や光の様相を自らの肌身で感じ取ることから、その制作は始まっています。

季節に応じて変化する山の彩りや、雨に濡れる草屋根の質感など、それらが生み出す風趣ある色彩を、向井潤吉は敏感に捉え、その気負いのない構図の中に、調和させながら大切におさめていたように思えます。

本展では、向井潤吉が自身の視覚体験から感得した風景への感慨を、「構図と色彩」という視点から探っていきたいと思います。

向井潤吉の作品は、基本的な遠近法によって構成されていますが、その視点は見上げるようなものから、俯瞰するものまでさまざまであり、観る者の視線を作品の焦点へ自ずと導く力を秘めています。実際の景色とは異なる省略も見られますが、こうした向井潤吉の画家としての画面構成における取捨選択は、作品によりいっそうの広がりや奥行きを生み出しているようです。

色彩の表現は、草屋根の民家とそれを囲む山々や草木などが、じつに深い一体感を生み出しています。向井潤吉は日本の風土の中にある独特で繊細な色の諧調を感じ取り、それを画面に定着させています。

向井潤吉の視覚が穏やかな風景に宿る生命感を湛えた気配に触れたとき、それがいかなる絵画表現へと展開していったのかを、ご覧いただきたいと思います。



1 《聚落》(山形県東田川郡朝日村田麦侯) 1966(昭和41)年 2 《北辺漁家》(青森県) 1964(昭和39)年
3 《雨後千曲川》(長野県下内郡豊田村豊津路) 1977(昭和52)年 4 《一隅の風景》(茨城県大洗町) 1975(昭和50)年

2007年7月28日[土]—11月25日[日]

●開館時間／10:00～18:00(入館は17:30まで) ●休館日／毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日) ●観覧料／一般200円(160円)、大学生150円(120円)、中小生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円) ※()内は20名以上の団体料金。小・中学生は土・日・祝日及び夏休みの間無料。 ※障害者で小・中・高・大学生、及び障害者の介護者(該当障害者に一人につき一人に限る)は無料。 ●お問い合わせ／〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03(5450)9581 <http://www.mukaijunkichi-annex.jp> ●最寄交通機関のご案内
内／東急田園都市線「駒沢大学」駅西口 徒歩10分・東急バス(渋05)渋谷～弦巻営業所「駒沢中学校」徒歩3分・東急バス(等11)祖師谷折返所～等々力「駒沢三丁目」徒歩3分・東急バス(渋11)渋谷～田園調布「駒沢大学駅前」徒歩10分・東急バス(渋12)渋谷～二子玉川「駒沢大学駅前」徒歩10分

世田谷美術館 駒沢分館 向井潤吉アトリエ館



本館情報 世田谷美術館 〒157-0075 世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代)

＜企画展＞「福原信三と美術と資生堂」 9月1日(土)～11月4日(日)

「ハロー・ふたつの人生
鬼才・中島敦と日本のゴーギャン士方久功」 11月17日(土)～2008年1月27日(日)

＜収蔵品展＞「夢からの贈り物 ルオー・ルドン・長谷川潔・駒井哲郎」 8月11日(土)～12月2日(日)

分館情報 会期:7月28日(土)～11月25日(日)

成城分館 清川泰次記念ギャラリー 〒157-0066 世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202
「青年とライカ 清川泰次がライカⅢaで写した昭和初期の学生生活」

奥沢分館 宮本三郎記念美術館 〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836
「戦後美術と宮本三郎 新たな潮流との対峙」